



ご入学、ご進級おめでとうございます

学校長 柴田 義晴

新入生保護者の皆さま、お子様のご入学おめでとうございます。在校生保護者の皆さま、お子様のご進級おめでとうございます。菊の園には、春とともに、かわいい新入生を迎え、また新たな気持ちでそれぞれの学年に進級した在校生が相集い、活気が戻ってきました。教職員一同、お子様のご入学、ご進級を心からお祝い申し上げます。

ところで、アベノミクスが「3本の矢」を打ち立てて推進されていますが、その「3本の矢」と言う言葉は、実は毛利元就が3人の子（毛利隆元・吉川元春・小早川隆景）に対して、戦国の世に兄弟仲良く結束して助け合うようにと「1本の矢は折れやすいが、3本の矢は折れることはない」に例えて教えたことが始まりました。今では、現下の日本の経済状況に対応するため、阿部首相が「財政出動」「金融緩和」「成長戦略」を3本の矢に見立て景気復活させようとしています。そこで、私も下記のように「3本の矢」を掲げて、この一年間の学校運営に努めていきたいと思っております。これは、機関紙「菊の園」にも記載したのですが、一部を簡単にご紹介させていただきます。

「百聞は一見に如かず」とよく言われます。この言葉は、古代中国の漢の時代、「漢書」に趙充国の言葉から伝わってきたものです。当時の皇帝から騒乱の平定に必要な戦略と兵力について聞かれた趙充国は、「遠く離れた場所で戦略は立てにくいので、自分が現地に行って実際に見たものを地図に描き、策略を申し上げたい」と言ったことに始まると言われています。この意味は、同じことを何度も繰り返して聞くより、一度でも実際に見ることには及ばないということです。すなわち、何事に対しても自分の目で確かめることが大切であるということです。

しかし、「百聞は一見に如かず」が代表することわざは、実は「百見は一考にしかず」「百考は一行にしかず」と続くそうです。つまり、同じことを何度も繰り返して見るよりも一度でも考えてみるものが大切であり、同じことを何度も繰り返して考えるよりも一度でも実践してみることが大切であるということです。このことは、正に本校の教育方針（3本の矢）でもあり、教室で沢山のことを学び、考え、それをさらに校外や移動教室等の実践の場で確かめながら成長してほしいという願いでもあります。

最後になりましたが、4月から教員も新体制となり、一丸となって子ども達の健やかな成長を目指し、全力で教育活動を進めてまいります。その際、本校運営に際しまして、これまでと同様に保護者の皆さまからご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

